

会議記録

会議件名	第1回掛川市子ども・子育て会議
日 時	平成30年11月14日（水）13:30 から 15:00
場 所	全員協議会室
出席者	子ども・子育て会議委員 16人（2人欠席、内1人は代理出席） 事務局 15人 傍聴者 1人

会議の概要

1 開会

2 あいさつ 山本会長より

皆さんこんにちは。今日のお話しの中心は、2020年度からスタートいたします第二期の子ども・子育て支援事業計画に向けてのニーズ調査を中心に皆様から御意見をいただければと思います。よろしくお祈いします。

あいさつ 浅井副市長より

皆様こんにちは。第一回の掛川市子ども・子育て会議の開催にあたり、それぞれ御多用の中、お集まりいただき、誠にありがとうございます。また、3名の方が新しく委員をお引き受けくださいました。どうぞよろしくお祈いいたします。

少しお時間をおかりして御報告等させていただきたいと思ひます。

今年の4月の待機児童の状況については、申込みが昨年より119人増えて2,358人となり、年々ニーズが高まっています。国定義による待機児童は46人となりました。とものもりや、掛川あそび保育園の開園により2年連続の待機児童ゼロを達成してきましたが、更なるニーズの高まりがあり対策をしまひります。今後しっかりとしたプランを作ってまひります。

本年度から、三笠及び土方幼稚園で早朝と夕方の預かり保育を拡充し、認可外保育園の保育料助成事業の対象施設の拡大を図っています。また、すずかけっこ保育園で、3歳児から5歳児を新たに90人お預かりできるよう整備を進めてまひるところです。

また、大東大須賀区域の認定こども園化の推進については、5月におおさかこども園の建設工事に着手し、来年4月の開園に向け整備が進んでまひります。また、ちはまこども園を現千浜幼稚園敷地に、(仮称)横須賀認定こども園を大須賀中学校南側に建設することが決まり、測量・設計に着手してまひるところです。また、整備スケジュールの見直しを行ひ、全体の計画を2年延伸することとし、2023年4月に5園全てが開園できるよう整備を進めてまひるところです。

ソフト的な事業ですけども、今年3月に掛川市子どもの貧困対策計画を策定して、これに基づいて貧困家庭の子どもを早期発見するためのガイドを作成しました。このガイドについては、新聞等でも発表しまひりましたが、子どもが御家庭で苦勞してまひるのではないかとこのことを見つけるという貧困のサイン12項目をはじめ、教育や生活、保護者の就勞などの相談機関や支援事業等を紹介してまひります。このガイドを作成する自治体は他にはないというふうにしてまひります。教職員や民生委員、自治会役員などに配付して、市民総ぐるみで貧困に困ってまひる子どもたちを見つけて支援してまひりたいと思ひてまひります。また、市内で初めての病児保育施設の開設については、中東遠総合医療センターの医師が、補助金等をいただひて、長谷地内に小児科クリニックの開院に併せて工事に着手し、来年5月の開園に向け準備が進んでまひります。

国では、来年10月の消費税10%への引き上げということがよく報道されてまひりますが、このときに幼児教育・保育の無償化についても実施するということが発表されてまひります。無償化の中身については、まだまだはつきりしないところが多いわけですが、現場サイドからすると大きな変化があります。家庭にとっても親御さんにとっても新しい制度ができますので、これによる大きな影響があるというふうにしてまひりますので、早く情報を得て対応してまひらなければならぬ。とりわ

けニーズが更に増えるのではないかと、そうしたら保育士の確保等の対応をしなければなりません。

本日の会議は、子ども・子育て支援法に基づきまして、平成27年度から5年間を一期とする掛川市子ども・子育て支援事業計画を推進してきましたが、この計画が来年度に終了することから、第二期掛川市子ども・子育て支援事業計画策定に向けてニーズ調査を行いたいと考えておりますので、ニーズ調査について皆さんに御協議いただきたいと思っております。どうぞ活発な協議をよろしく願います。

3 新委員紹介

4 協議事項

(1) 子ども・子育て支援に関するニーズ調査について

別紙資料について、事務局より説明

質疑

委員 前回5年前に実施したときの回収率はかなり高かった記憶がありますが、どのくらいのパーセンテージであれば、正しい数値と乖離が少ないか教えてほしい。

掛川市 前回の回収率ですが、未就学児については72%、小学校の1年生から3年生につきましては75.1%の回収率でした。ある程度の傾向がみえる数値としては、サンプル数が1,000あればある程度ぶれない数字になるとのことで、1,500の調査数とさせていただきました。

委員 5年前を思い出すと園から配付して園で回収した。各園は、かなり頑張ったと思います。時期も平成25年くらいで新制度が始まるちょっと前で、今後どうなっていくのかと保護者もいろいろ興味があった状況だった。今は無償化があり興味はあるかもしれないが、5年前と今と比べると1,500分の1,000集まるかどうかというのが先ず一つ気になります。市から園に協力をお願いをするべきだと思うし、そこも含めて進めていただきたいと思います。

掛川市 御意見ありがとうございます。各園につきましては、この会議終了後、調査を行いますという協力をお願い文書を先ず送らせていただこうと思います。その後、11月下旬に調査票ができましたら、各園に職員が伺って調査票を渡しながら改めてお願いをして回ろうと思っております。

委員 今月下旬に持ってきていただけるとの話だと思いますので、是非遅くならないように願います。締め切りが19日と書いてありますのでよろしくお願いします。この調査票が自分のところに届いたのが締め切りの2日くらい前だった。これだけのものだったら、せめて1週間くらい前までには手元に欲しかったと思います。

掛川市 事務局の手直しに時間がかかった関係で遅くなってしまい申し訳ありませんでした。次の集計結果については、なるべく早く委員の皆様にお伝えできるように努めます。

(2) 利用定員について

別紙資料について、事務局より説明

(3) 子ども・子育て支援事業計画の進捗・評価・改善について

別紙資料について、事務局より説明

質疑

委員 子育て支援事業に関係があるかわかりませんが、図書館でブックスタートという新たに生まれた子どもに絵本をくれる事業をどこもやっていると思いますが、自分が子ども読書活動推進委員に選ばれて県外の図書館に視察に行ってきました。一カ所はとにかくブックスタートを100%やりたいとのことで、母子手帳にブックスタートに来たかどうかをチェックする欄があると言った。来ない人をチェックして何かの機会を設けてやっていくという言い方だった。もう一カ所は図書館でブックスタートの資料がないか聞いたところ、「それは保健行政がやっているのではありません」との答えだった。あまりにも2つの市で違って、かたやこれだけ一生懸命図書館側も考えているのに、多分ブックスタートの資料を作っているのは図書館だと思う。掛川市も、すごくいいものができているのに縦割りになってしまっている。この会議に図書館の人がいないので、この子育てのところで知っておいた方がいいと思いました。

掛川市 掛川市においてもブックスタートの事業を自治体の中では早くから始めて、少しずつ予算を確保しながら充実をさせていっています。今お話しがあったようにとても読書のことは大事だと強く思っていますが、なかなか思うようになりません。縦割りのことですが子ども子育てには乳幼児健診と関わりが深いので大事にしないといけないと思っています。乳幼児健診のときにお母さんお父さんが多く来ますのでいいチャンスなんですよ。育ちの悩みを聞きながらいろんな啓発をするチャンスと捉えていますので、コンシェルジュも乳幼児健診或いはお悩み相談というふうに鏡あわせで運営できるように工夫しています。

掛川市 掛川市では6ヶ月健診に来てくださった皆さんに本を配付させていただいています。そこには図書館の職員が来てくれて本の紹介、そしてボランティアの方だと思いますが読み聞かせということで、お母さんと子どもが本を楽しむということも体験していただいています。また、2歳2ヶ月健診のときには、ブックフォローということで図書館の方が来て本の紹介をさせていただき、配付ということも各健診の中でやらせていただいています。確かに健診に100%来ているわけではないですけども、掛川市の健診の受診率は高く98%から99%の方が来ていただいている現状がありますので、全員に配付には覚束ないですけども、かなりの人数の方に本に親しむという場を提供させていただいているかと思えます。

掛川市 御意見ありがとうございます。来年度計画を策定するものですから、委員の皆様から御意見をいただいて、ブックスタート等の事業も計画の中に盛り込んでいくというのも1つの方法かなと思います。貴重な意見ありがとうございます。

委員 4ページの放課後児童クラブで新規に開始した事業で分割保育開始ということで、定員が溢れてしまったので別の場所でやったんですが、結論からいうと、平成31年度は分割保育はやめました。我々の学童は保護者運営の学童保育ですので、場所を分割してそれを保護者が運営していくのは無理があるだろうということで辞退させていただいて、民間のところでなんとか吸収してくれるのではないかとこのことです。何を言いたいかということ、小学校にあがったときも学童保育のニーズとその受け入れ口がなかなか限界にきているということも、どちらかという保育園幼稚園の利用者の方であったり運営の方がちょっと意識してもらえるといいかなというところで、別に今解決策ということではなくて、もちろん乳幼児の方がニーズの優先度が高いのはわかるんですが、例えばシングルマザーであったり、地元じゃない人間が越してきて子どもがいて共働きという状況だと、やっぱり低学年の小学生を1人でというのはなかなか危ういなというところがあるので、今そんな状況ですということを知ってもらえればと思います。

掛川市 御意見ありがとうございます。今お話しがありましたとおり、保護者の皆様と何度か打ち合わせをしながら31年度の運営に向けて方策を探ってきております。分割で保育していたのを保護者会では、今お話しがあったとおり運営が大変だということで、なしにするということになりまして、その分をまたどこで受け入れるかにつきましても、民間も入った中で決めさせていただいて方向性が出たところで、本当に保護者会の皆様にはいろいろと御苦労いただきありがたいと思っております。

この資料につきましてはこの4月に向けてのことしか書いていなかったものですから、更その後どうなったというのは書き足りなかったかなと思います。今学童につきましては地域運営、社協運営、それから保護者の会運営、民間運営といろいろな運営主体にお願いしていますが、今後、保育ニーズが増えるに合わせまして学童保育のニーズも増えてくるというのは当然予想されますので、そういったことも踏まえまして今回ニーズ調査の中にも小学生1年生から3年生の調査もさせていただいております。計画の中にも学童の今後の見込みといったものも入れてございますので、保育園幼稚園のことだけではなくて児童子育て全般について、この計画を立てていくというつもりでございますので、また皆様の御協力をいただければと思います。

委員 私たちのところは学童もやっておりまして10月の台風の時に停電しました。月曜日は学校が通常どおり開いてました。火曜日は昼を食わずに11時過ぎくらいに下校になりました。そのときに学校が早く終わるよというのは、私たちのところに連絡はありませんでした。学校側としては停電してしまっていますから連絡手段がないのかもしれませんが、一切連絡がなかったです。私たちは保護者から聞きました。通常2時頃ですから11時では学童保育所は開いていません。なんとか職員をかき集めて、私たちのところは80人から90人くらいが学童に来るので、それなりになんとか人をかき集めて開きましたけど、台風が来て停電してしまうことがしゅっちゅうあるわけではないと思いますが、その間に学童保育所があって、学童保育がかなり増えていま

す。ほっとける数字ではない。今どこの学区でも溢れています。そういったところを小学校、教育委員会さんもしっかり捉えておかないといけないなと思います。

それからもう1点、これからインフルエンザが増えてきて学級閉鎖や学級閉鎖までいかないけどあるクラスだけ早めに帰るとき、学童使っている人は家に帰ってもお父さんお母さんいませんから、学童に来ます。連絡があってこうですよっていえば開けられないことはないですが、何のために早く帰すんだということです。集団でいるのがよくないから、それぞれ家でちゃんとしてねということが目的だと思いますが、それを学童に行ってまた集団の中に入れて学童に他の学年がいっぱいいますから、なんのためにそこでそういう処置をするのかというのにちょっと最近疑問を感じてました。そこら辺を学校サイドがどう考えているのか。今言ったように学童保育増えていますから、学校側が校門出たら、はいさよならでは済まなくなっている。ですから急遽時間が変わるときの対処とか、それぞれの学童保育所さんときちんと連携をとっておかないといけないと思う。そこら辺のことを小学校サイド、教育委員会サイドとしても公立ではこういうふうに対処しますということを決めておかないと、それぞれの学校で勝手に対応してくださいという混乱を招きかねないので、そういったところも学童については子育て支援の中に入っていますので連携をとっていただければと思います。

掛川市 ありがとうございます。今言われたことはごもっともだと思います。停電も長くて3日続いたところもありました。給食センターまで停電したところもありまして、次の日の給食をどうするかとかいろんな事を考えている中で、他のところまで十分気が回っていなかったと感じたところです。学校の校長会等ありますので、そのお話をして普段連携がとれるようにお伝えして対処できるようにしていきたいと思いますので、よろしくをお願いします。

委員 今、停電の話がありましたが、小学校といつも連携を密にしています。保護者へのメール配信を全部指導員が受けるような体制にしてあります。だから学校で今日早く帰ります。今日はどうですということ、全部職員が知ることができるようにしてあります。だからこの間の電気がついたというのも直ぐわかりました。こども希望課の担当者から、国の基準や運営指針と合わせたチェックシートが配られますけども、指導員も〇にするように一生懸命話し合いをし、行動に移しております。だからこういうときはどうするかというのも先生たちが話し合っています。〇にするために一生懸命先生方がやってくれてありがたいなと思います。視察に来た人たちも年々環境が変わっていくねとみてくれた。でも1つ言いたいのは、物とか備品とか設備がよくなるのではなく、その中で働いている先生たちの表情をみていただくのが一番ではないかと思います。

委員 校長会で校長に言うておくとのことですが、今学園化構想でそのこの繋がりはありますが、学園外の子のところには通知が来なかったというのがあって、不安になったケースがあった。そうやって校長先生に丸投げすると学園だけで連絡してオクケーになってしまうので、そこは教育委員会がちゃんと連絡はこうしますというのを決めて、多いときは10校の小学校に行くわけだから、そういうのがあるというのを頭にいれておかないと学区というものが言わないとわからない。何かシステムをつくるよといったことも考えていった方がいいのかなと思いました。

掛川市 各学校に連絡メールシステムというのがありまして、登録を関係の方にやっていただければ、子どもたちとか親に流すメールがそのままいきますので、登録してもらえば一番いいかなと思います。

委員 きずなネットは当然入っています。でも動いている学校と動いていない学校がありました。私たちのところの中学校は動いてましたのでひっきりなしにメールが来ましたが、小学校は一切来ませんでした。復旧しましたというメールが来ただけです。後で聞いたんですが、パソコンがダウンしていて使えませんと話でした。中学校はなぜ動いていたか聞いたら、先生が個人で自分のスマホでやったとのことでした。小学校2校はそれはやらなかったわけですし、公立の学校には携帯電話ないですよ。そうすると何も動けない。携帯で、きずなネットを使うということはちゃんと設定しておかないと使えないですよ。停電が起きるといことはそんなにないかもしれませんが、やはり非常とといったときに携帯電話を小学校に発電機くらい持っているんですよ。どこの小学校も太陽光がついているので、それを充電しておく装置はできるはずなんです。そういったものも是非予算化して元があっても動いていないと意味がないのできちんと整備していくということと、こうなったときにはこうするよといった対処をとっておかないといけないかなと思います。

掛川市 そのことについても、スマホからやる方法を知らなかったという学校があったということが課

題として上がってきましたので、スマホでも出来るよということを今回きちんと教えましたので、次回あってはいけませんけども、あった場合にはちゃんとメールが送れるようにしますのでよろしくをお願いします。

会 長 大変建設的な御意見をいただきまして、ありがとうございます。案外盲点になってしまっているところかなという気がしますが、私の思い込みかどうかあれなんですけど、少なくともこの間の停電とか緊急の場合にせめて公的な機関に自家発電設備の設置義務というのはいないんですか。例えば設置するお金が何百万もするんだったらとても学校でってわけにはいかないだろうと思いますが、最低限度今こういう時代ですので、情報機器くらいはそんなに発電量が多くなくていけるんじゃないかなという気がしますが、そうちょくちょくあつては困るし、まず自然災害でこんなことは珍しいと思いますけど、何か緊急の場合に対応策というのをちょっと公的なところだけはお考えになっておいた方がいいかなと、もちろん形式的なバックとの相談ですけども、ちょっとそんな気がしましたので、また御一報いただければと思います。

掛川市 学校が避難所になっていますので防災倉庫があります。防災倉庫の中には必ずガソリンで動く発電機がありますので、少なくとも職員室の中は電気がつくようになっています。今回職員室だけは太陽がでていなくても動かせる状態をつくって対応しております。

会 長 全部の防災倉庫に入っているんですか。

掛川市 広域避難所には全てあります。広域避難所になっていない東山口小学校以外の小中学校には全て発電機が1台か2台は設置がされています。だいたい体育館が避難所となっていますので、通常は電源を切り替えまして発電機からの電力で水銀灯がつく場所が設定してあり、そのときだけ使えるコンセントがあります。

会 長 停電の時に自動的に切り替わるのではなくて、人為的にどなたかがセットしないと駄目ということですか。

掛川市 それもどなたがやってもわかるようにマニュアルが発電機についていまして、防災倉庫は学校の先生でも開けることができ、そこに行く職員もそうですが、場合によっては地区の方も開けることが出来るようになっています。

委 員 特に配慮が必要な方への支援で、今後の検討事項にも記載されてはいますが、今子どもの支援をしていく中で、家庭全体を支援しなければならぬお宅がどんどん増えてきているように思いますので、そういったことを第二期の計画には具体策で各課の連携ということだけではなくて、もう少し抜本的な解決ができるようなものをいれていただきたいということが1点と、もう1点は調査票の中ではおそらく漏れているだろう障がい児の家庭とかなかなかニーズの把握が難しいところ、絶対数が少ないので、どうしても置き去りになりがちなんですけど、そういった家庭の状況も把握しながら計画の方には是非反映させていただきたいと思います。

掛川市 御意見ありがとうございます。その辺りのことも踏まえて次期計画の中で委員の皆さんに御議論いただきながら計画を策定していきたいと思っておりますのでよろしくお願いします。

会 長 大変建設的な御意見を沢山ちょうだいいただきまして、事務局の方でもまたいろいろな対応をとっていただくときに参考となる御意見だったかなという気がします。

5 その他連絡事項

別紙資料について、事務局より説明

質疑

委 員 待機児童対策でいろんな施策をこども希望部の方でつくって、それを委員の皆様にお示するという趣旨の発言だったと思うんですが、この子ども・子育て会議というのは、設置の理由の中に市の施策を聞いて市は会議に意見聴取しなければならないみたいなものがあるはずなんで、そっちで決めるじゃなくて決める前にこっちに意見聴取しなければいけないルールだと思うので、そこのところをしっかりとしないと、この子ども子育て会議って何となってしまうので、そのところを踏まえておいてください。

掛川市 委員の皆さんに示す上でもある程度、市の方でもこういったことをやっていきたいということもまとめてこないとお諮りもできませんので、今細かく決まっていなくて恐縮ですが、こんなことを考えていますということで説明させていただきました。それを踏まえて抽象的すぎて意見が出ないということもあるかもしれませんが、御意見等ございましたら承りたいと思っておりますので

よろしくお願ひします。

委員 先ほど子どもの貧困についてというので、新聞に出たんですけど本日いただけるかなと思って楽しみにしてきたんですけど。

掛川市 副市長のお話の中にもありましたが、今年度策定委員会を設置いたしまして、掛川市の子どもの貧困早期発見対応ガイドというものを作りました。これにつきましては、県下でも初めてということで、おそらく全国でも例になくてこれを出したところ全国から問い合わせが来ている状況になっています。ただ、私どもの中でこれを開いていただくと中に子どもからの貧困のサインというところがございます、ここを関係機関の方には見ていただいて気になるお子さんがいた場合には、御一報いただくという形で考えていますが、幅広く配布をし、子どもの目に入っている原因になってはいけないということも考え、市のホームページ等には載せていません。御希望のある関係機関にはメールで送っている状況で、とにかく掛川市内のお子さんの中でなかなか貧困が見えにくい状況にもなっている、近所付き合いも希薄になってきている中でも貧困率は年々上がっているところですので、ここの中をみていただきますと、課題の中でサインのところをチェックしていただき、対象になりそうなお子さんがいた場合には、まず御一報をとということでこの裏面に関係機関がついております。大元の窓口はこども希望課になっていますが、学校関係の方ですと教育委員会の方やふくしあなど、いろんな関係機関が入っておりますので、それぞれに繋がればまたそこから関係機関に繋がっていくということで、子どもの貧困の支援の事業を一覧に下につけてありますが、いろいろなサービスがあるけれども存在すら知らなくて、利用が出来ていない方もおりますでしょうし、先ずその子を発見しているようなサービスに繋げていくことができればと、また関係機関がその子のことをケースとして捉えて対応していくことができなければと考えております。

既に学校の教職員の方全員分と園の職員全員の方、社会福祉協議会と地域の区長さん、まちづくり協議会と関係機関の民生委員さんにはお配りをしておりますので、今後、これを活用していただいて問い合わせが増えてきたところで、体制を強化していきたいと思っております。

会長 社会福祉協議会で把握していらっしゃるかわかりませんが、子ども食堂をやってらっしゃる機関というのはございますか。

副会長 子ども食堂に関しましてですけども、児童館と繋がっているところがありまして、大東地区に1件あり、個人の会社で近所の子を集めて月に1回カレーを作ったりしていますが、児童館を利用している中学生で家庭に背景のあるお子さんをボランティアとして子ども食堂に繋がたという例はありまして、子ども食堂自体をやっているわけではないんですけども、地域で子ども食堂を立ち上げたところを支援するとか、繋がって皆さんに紹介したり、ボランティアに繋がたりする形はとっております。

会長 子ども食堂の数が増えてまいりましたし、新しく子ども食堂を開設する場合は県の社会福祉協議会から補助金みたいなものいただけるのではないかと思いますし、いろいろ工夫がでてきているんですけども、出来ればやっぱり子ども食堂を開設することが目的というよりも、そこを通して子どもの貧困から背景にある生活困窮家庭が、ある意味で出てこないとちょっと本当の意味での解決にはならないだろうと思ひます。ただ、日本人的な感覚からするとなかなかこういう状態の時に、ちょっと助けてくださいという声を自ら出せるっていうのは文化的になかなか難しいという点がありますし、恥の文化と言ひましようか、これは逆に言うといいことでもあります、取り返しのつかない状況になってからでは遅くなるんで、その辺りの対応が難しいかなという気がします。戦後の生活困窮とはまた質が違った意味での問題になってきていると思ひますので、是非いろいろな手立てでこれをきちっとクリアしていく方向に持っていっていただけるといいなという気がします。

委員 先日テレビで保育園希望の方が出てて本当は落ちたいんだ。申し込むんだけど落ちましたという企業がじゃー一年半育休延長していいですよということで、落ちたい希望の方がちょっと増えているということを報道されていたんですけども、今掛川市は子育て支援がすごく充実してまして、働かないで幼稚園までというお母さんに大変手厚い施策をとってくださっているんですけども、やっぱり愛着形成という点から考えると、少しでも子どもさんを連れて楽しい時間を過ごしていただきたいなと思ひまして、企業さんでも優良企業というのを取り入れているわけですけども、できたらそういうことで優良企業さんも沢山出ていただいて、せつかくある子育て支援も沢山使っていただいて、その中で愛着形成というのが大事なんだよということ伝える場

所っていうのも、本当にこう早くから保育園に入れてしまうと限られてしまうということなので、できたらそういうふうなことも施策の中に取り入れていただけたらいいかなと思います。

掛川市 ありがとうございます。掛川市の待機児童対策として施設整備を進めてきたところもあります。が、反面今おっしゃられた親子の愛着形成についても問題視をしております。桜美林大学の山口創教授と委託契約を結びコホート研究という形で愛着の研究をしています。園に御協力をいただきまして、そこで唾液採取をしてオキシトシンといわれているものがありますが、スキンシップを沢山するとその分愛情ホルモンが出てくるということで、唾液を採取しながらの研究とスキンシップをすごく沢山一生懸命やる園と普通に過ごしていただく園との中で調査をして、その結果を出していく。それを3年計画でやってまして来年度が最終年になります。その中で1年目の結果をみますとスキンシップを意識的にすごくやったところの方が傾向が出ています。子どもが落ち着いてきたり、みんなと仲良く生活が出来たり、人を思いやる心が向上したりということが、結果として出ているところでして、そんなところをスキンシップのすゝめということで、掛川流子育て応援事業として進めてきております。その中でリーフレットも作りまして、子育て中のお母さんたちに配付しているところです。今年度は更にそれを発展させてスキンシップ遊び100選を作りまして、今後皆さんに配付して実践していただくということも計画しております。11月24日（土）の午後1時から教育センターあすなろで、桜美林大学の山口創教授をお招きして「幸せになる脳は抱っこで育つ」愛着を築くスキンシップの魔法ということで、講演をしていただく予定で一般にも募集をかけていますので、そちらの方も是非御活用いただければということで、掛川市としては重点的に事業に取り組みさせていただいて普及啓発を図っております。

委員 保育園を落ちたい人という話が出たんですけども、確かにそういう人がいるというのを私も知ってるし、市としてどれだけ把握していて、この人数のどこに入っているのか教えてください。

掛川市 数的な把握は難しいですが、企業が不承諾の通知を持ってくるように求めている会社があるのは事実です。それによって年間10人以上の方がそれを欲しいということで、お見えになります。年度当初に申し込んでいただくと不承諾が1度です。入れる方はそのときに連絡はするんですが、それ以外に不承諾を再度出すことはないですが、育休が年度途中で切れると、そのときにもう一度欲しいということで来られる方がいます。そのところは社会全体の構造の中で改革していかなければならないところかなと思います。

委員 何故そんなことが起こるかという、育児休業給付金が1年間ですよね。それプラス半年まで延長出来るんですけども、それには不承諾通知が必要という仕組みになっているので、もし希望を出したときに実は落ちてもいいよという人が入ってしまって、本当に困っている人が入れないという可能性もあるわけじゃないですか。そのところはもっとしっかりやるべきではないかなと思いますので、ちょっと対策を考えていただけたらいいかなと思います。委員のみなさんもそういうことがあるんだよということは知っておいていただけたらと思います。

会長 予定としていた時間となりましたけども、少しだけ感想をお聞かせいただければと思います。恐れ入りますが初めて今日出席いただいて印象でも結構ですんで、一言いただくとありがたいなと思います。

委員 今日はこのような貴重な会議に参加させていただきまして、私にとってもいい経験になったと思います。皆さんのところも今回初めてということで、可能な限りこちらの方に顔を出させていただくということで、今日は皆さんの御意見を伺っているいろんな問題があるということも把握はできましたし、組合の活動の中でも子育て支援ということで、提言をしているということもありますので、貴重な意見をこれからもよろしくお願いします。

委員 先程来台風にかかる対応ということでお話しが出てきましたが、自分の学校でも対応が少しごたごたしてしまったこともあって申し訳なかったなと改めて感じました。本当に自然災害も含めていろいろなことが普通に起こる時代になってきたということが、想定外と言えないような想定外のことが、普通に起こるくらいの思いでない学校もいけないんだと感じながら、今後市教委とも連絡を取りながらやっていかなければいけないなと思いました。本当に貴重な意見を聞かせていただきました。ありがとうございました。

会長 ありがとうございます。申し訳ございません。突然の御指名で恐縮でございました。本日の協議事項並びにその他の案件は以上でございます。いろいろと今日は建設的な御意見或いは場合によっては盲点になってしまっていたところを皆さんからいいアイデアを出していただいて、今後のために大変良かったという気がします。ありがとうございました。

6 閉会